様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：３２６４０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０１７４９

研究課題名（和文）移動開始期の乳児が自発的に「遊びはじめる場所」の研究―保育環境デザインへの援用―

研究課題名（英文）Research on places where infants start playing spontaneously

研究代表者
佐々木　正人（SASAKI, Masato）

多摩美術大学・美術学部・教授

研究者番号：１０１３４２４８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、環境との出会いを調整し始める時期として乳児の移動開始期に注目し、周囲との出会いの質的な変化を「遊び始める場所」の分析によって明らかにし、保育環境デザインに利用可能な事例集としてまとめることを目的としている。移動開始時期のデータの分析から、場所が複合するアフォーダンスからなる高次の単位として記述され、移動とともに生じる物の配置換えの重要性が示唆された。本研究の成果の一部は、佐々木（２０１５）、西尾ら（２０１５）、Sasaki & Nonaka（２０１６）、西尾ら（２０１８）、染谷ら（２０１８）、として公刊された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、移動の開始と「遊びはじめる場所」の関係を発達心理学的に検討するというオリジナルな課題設定において遂行された。本研究の成果は、家庭内での遊びはじめる場所の環境の生態・行為的構造を明らかにし、家庭での子育てに資するだけではなく、保育所等「公的施設における保育を家庭と地続きにする」ための資料として重要な意義を持つと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the qualitative change of the encounter between the infant and the surroundings by the analysis of "the place to start playing", and to summarize it as a casebook that can be used for childcare environment design. For this reason, this study focused on the infant's locomotion start period as the time to begin to adjust the encounter with the environment.The results of the analysis suggested that the place was described by a higher order unit of affordance composites, and the importance of the rearrangement of objects occurring with the locomotion. Some of the results of this research were published as Sasaki (2015), Nishio et al. (2015), Sasaki & Nonaka (2016), Nishio et al. (2018), Someya et al. (2018).

研究分野：生態心理学

キーワード：アフォーダンス　アンビエント　場所　遊びはじめ　移動　遊離物　環境－行為系　レイアウト

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

研究の「ライフログ(lifelog)化」、すなわち、特定の年齢段階のこどもや、ある場所での活動を高い密度で縦断的に記録し、発達過程を詳細に明らかにする動向がある。例えば始歩期 150 名を対象に、1 歳児が 1 時間平均で 1500 歩移動していることを明らかにした研究(Adolph et al, 2012)や、2 年間にわたる週 1 回 1 時間の記録から抽出した 940 の動画クリップを集録し、658 キーワードで検索する動画データベース『動くあかちゃん事典』作成したわが国の試み（佐々木ら，2008）、０歳児のつかまり立ちは壁の形状や家具の配置に支えられていることを示す研究（山崎，2011）、「片付け」行為を周囲の物の配置と姿勢の入れ子化として描いた研究（野中，2009）などである。

申請者は、これまでに乳幼児の発達過程の生態学的研究をおこなってきており、とくに段差ごとに行為の発達を検討した分析から、ベビー布団、引戸レール、浴室の段、ベッド、ソファー、父の膝、食卓イス、階段の重要性、すなわち行為は段差ごとにユニークで、注目すべきは「落下、転倒遊び」を創発した段と、「慎重に移動する」他の段が峻別されていたこと、特定の場所で移動からの遊びがはじまることが示唆された（佐々木 2011）。上記のような背景より、本研究の「遊びはじめる場所」とは、「移動が停留し、周囲の探索が行なわれるところ」であり、移動開始期の乳児ならではの探索的活動がみられる場所、すなわち知覚および認知を促進し得る場所であるという重要な知見が得られた。

２．研究の目的

本研究の目的は「場所」の心理学的な性質の解明である。私たちの生活は場所を選び改変して行なわれているが、場所がもつ心理学的な性質は明らかではない。乳児は、遊び場を教えられるより前に、「直感的」にモノや場所の「意味」を発見している。そこで、移動を始めた乳児の行為が発見する「遊びはじめる場所」について以下の３つの目的を設定して検討することとした。

目的１：行為の観察からの場所の蒐集

乳児によって自発的に発見される「遊びはじめる場所」を家庭及び保育所で同定・蒐集・分類する。家庭から保育所への活動の移行を援助するための、両者をつなぐ場所・環境の性質が明らかにする。「遊びはじめる場所」は、「移動が停留し、周囲の探索が行なわれるところ」とし、移動開始期の乳児ならではの探索的遊びが見られる場所を蒐集・分類する。

目的２：場所の解析と記述、妥当性検証実験

物理的・社会的とは異なる行為・心理学的場所の解析・記述方法はいまだ確立されているとは言えない。したがって、本研究では、場所という単位を記述し、検証を積み重ねていくことが可能となるような学術的基盤を開発することが目的の一つとなる。そのために、家庭と保育所で発見された遊び場所の環境資源をミクロおよびマクロのレベルで解析する。解析を通して発見され、分類した場所について、乳児を対象とした行為による選択・選好場面を分類した要因ごとに設定し、乳児を対象とした妥当性検証の実験的観察から検証し、場所の行為的意味を確定することが第二の目的となる。

目的３：成果の保育現場への還元と応用

保育所などの乳幼児施設と家庭を、連続的にデザインすることを可能とするような「０－１歳児の自発的遊びがはじまる場所事例集」の作成が第三の目的となる。内容はきわめてコンパクトにして、実践の場で活用可能な資料集を目指す。

３．研究の方法

本研究の方法は、第一に、家庭と保育所での０－１歳児の「遊びはじめる場所」の蒐集と分類、第二に、０－1 歳児の「遊びはじめる場所」についてのオリジナルな環境分析と実験的観察、第三に、０－1 歳児の「遊びはじめる場所」事例集（「乳児版パタン・ランゲージ」）の作成である。

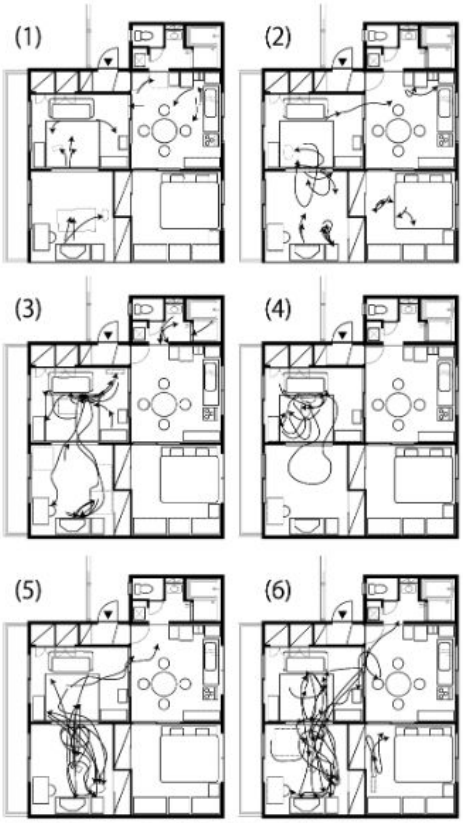
４．研究成果

(1) 本研究の成果として、歩行開始期における周囲の環境の構造が分析され、部屋の形状とその中の場所が持つ機能が乳児の歩行発達において資源となっていることが確認されるとともに、「周辺」「開けた所」「区切り」という生態学的パターンを発見し、歩行発達を部屋における場所と場所の結びつきのバリエーションの変化として描きなおした（図１）。

(2) また、上記のパターンを基礎として、歩行の発達が個々の幼児と周囲の環境によって構成

されるシステムにおいて創発するタスクとして理解されることが示唆された。

(3) 「場所」に関して生態学的な検討が加えられ、膨大な物（objects）が周囲を取り囲んでいるという現代の人類にとっての環境を、行為の創発とその発達における基本的なユニットに位置付けた。



(1)Walking Age 1-14 日 , (2)15-28 日 , (3)29-42 日 ,
(4)43-56 日 , (5)57-70 日 , (6)71-86 日

図１　幼児の移動経路の変化(西尾，2015)

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　7　件）

① 西尾千尋・青山慶・佐々木正人．乳児の歩行の発達における部屋の環境 資源，認知科学，22(1)，151-166，2015．（査読有）

② Aoyama,K.,Suzuki,K. & Sasaki,M.. Observing development of the play system through block play, Studies in Perception and Action, XIII, 101-104.（査読有）

③ Yamazaki,H. & Sasaki,M.. A theoretical study on the genealogy of “Medium”: Adding Russell to Heider and Gibson., Studies in Perception and Action, XIII, 101-104.（査読有）

④ Sato,Y.,Aoyama,K. & Sasaki,M.. Where is the dog? An analysis of stage performers’ gesture and utterance., Studies in Perception and Action, XIII, 203-206.（査読有）

⑤ Nishio,C., Aoyama,K., & Sasaki,M.. An infant walking in his home., Studies in Perception and Action, XIII, 249-250.（査読有）

⑥ Masato Sasaki & Tetsushi Nonaka, The Reciprocity of Environment and Action in Self-Righting Beetles: The Textures of the Ground and an Object, and the Claws. Ecological Psychology, 28 (2), 165-167, 2016.（査読有）

⑦ 西尾千尋，工藤和俊，佐々木正人．　乳児の歩き出しの生態学的検討:独立歩行の発達と生活環境の資源，発達心理学研究，29(2)，73-83，2018.（査読有）

〔学会発表〕（計　2　件）

① 西尾千尋、佐々木正人．歩行の発達と部屋の環境 ー乳児の歩行開始の戦略ー，日本発達心理学会，2017．

② 西尾千尋、工藤和俊、佐々木正人．生活環境における乳児の歩行の発達と物の運搬，日本発達心理学会，2018.

〔図書〕（計　2　件）

① 佐々木正人．『新版　アフォーダンス』，岩波書店，133 ページ，2015.

② 染谷昌義、細田直哉、野中哲士、佐々木正人、國吉康夫．『身体とアフォーダンス』．金子書房，232 ページ，2018.

６．研究組織

(1)研究分担者
なし

(2)研究協力者
研究協力者氏名：野中 哲士
ローマ字氏名：NONAKA，Tetsushi
所属研究機関名：神戸大学
部局名：大学院人間発達環境学研究科
職名：准教授

研究協力者氏名：青山 慶
ローマ字氏名：AOYAMA，Kei
所属研究機関名：松蔭大学
部局名：コミュニケーション文化学部
職名：専任講師

研究協力者氏名：山本 尚樹
ローマ字氏名：YAMOTO，Naoki
所属研究機関名：立教大学
部局名：現代心理学部
職名：助教

研究協力者氏名：山崎 寛恵
ローマ字氏名：YAMAZAKI，Hiroe
所属研究機関名：お茶の水女子大学
部局名：人間発達教育科学研究所
職名：研究協力員

研究協力者氏名：西尾 千尋
ローマ字氏名：NISHIO，Chihiro
所属研究機関名：東京大学
部局名：大学院学際情報学府
職名：大学院生

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。